

### 第3回 日本遺産「里沼」テーマ別 タスクフォース情報共有会議

- 1) 日時 令和2年8月26日(水)15:15~16:15
- 2) 場所 館林市役所3階政策審議室
- 3) 出席 須藤市長・館林市役所「里沼」関係課職員(係長級・担当者)
- 4) 須藤市長あいさつ

新型コロナの影響により各種事業が軒並み中止となっている。GW期間中は多々良沼・城沼が一部閉鎖になったものの、前年度に比べて内外の来訪者が散策やピクニックなどを楽しんでいる姿が散見され、まさに自然回帰の様相が見られた。里沼には訪客も必要だが郷土へのアイデンティティやシビックプライドが重要である。コロナ禍の中で首都圏に住む制約やリスクがあり、リモートワークなどオンラインの対応が求められ、新たに館林に引っ越してもらうことも必要な展開である。今回の会議を含め、里沼の火が消えないよう継続していきたい。

#### 5) 各チーム報告

	各 TF チームの取組み報告	質問・意見等	方向性
1	沼辺土地活用チーム (都市計画課・道路河川課・緑のまち推進課) 沼辺周辺の土地活用に向け事業者との情報交換を継続して実施中。各社とも新型コロナで事業展開は控えている状況。また、沼辺周辺の積極的な土地活用を図るための手法を検討していく。 近藤沼公園(中沼)におけるバーベキュー等施設整備のため6月にアンケート調査、8月に工事を発注。 城沼つつじ緑道(城沼北岸:当郷町)で「文学の小径」「朝陽の小径」との一体的活用に向け、芝生広場整備を検討中。	特に無し	新型コロナにより事業展開が困難だが、継続的に事業者との関係性を維持する。
2	日本遺産ロゴ使用・商品ブランド化チーム (商工課・農業振興課・日本遺産 PJ) 里沼切手・ヌマノマスク等、民間の商品開発支援を行い、SNS 等で話題となっている。地場製品の再活性化など民間支援のため各課との連携を進めたい。 館林商工高校生徒による「里沼ロゴ」について、市民投票で決定するため、現在準備を進めている。今年度の連携事業は新型コロナのため再検討する。市内うどん店・川魚店にチタン製構成文化財プレートを配付し、各店舗でPRを行っている。 7/30に第3回フードシェッド意見交換会を開催し、農商工連携事例として①館林産小麦を使った百年饅頭、②農作物残渣を利用したバイオマス発電、③かごめ六斎市での試食・販売を検討。また、館林駅連絡通路利活用の意見交換を行い5名の出店希望者が得られた。	【須藤市長】 新型コロナ対策重点事業第3弾でグルメ券を企画したが、「里沼グルメ券」という名称で進めて欲しい。	本日商業振興係担当者は出席していないため市長意見を伝える。  駅通路での物産販売の準備を進めるとともに、農商工連携関係者への聞き取り・マッチングを進める。
3	体験型観光関係チーム (つつじのまち観光課・道路河川課・日本遺産 PJ) 群馬県館林土木事務所が城沼水面利用関係団体と利害調整中。事前意見交換では利用団体の登録制と市窓口設置の要望あり。また6月にカヌー1艇・カヤック5艇を備品購入。市関係課の事業で活用して欲しい。(9月下旬進水式後からOK) 桐生市が日本遺産担当部署新設し、本市(企画課・観光課)に相談・視察あり。足利市を含めた近隣認定地3市で連携した事業展開を構想中。 4~6月に東武鉄道(株)と連携し、里沼ウォーキングを実施し、限定的周知ながらも閲覧数1186件あり。また映像学習館では新作映像公開記念イベントを開催。(里沼クイズ・沼の魚展示・めだかすくい等) 「TATEBAAYSHI TRIP」増刷に合わせて新規の多言語版も作成予定。観光庁誘客多角化事業にも応募予定。	【須藤市長】 水面利用の登録制・市窓口設置とはどのような内容か?  【須藤市長】 市購入艇の活用方法は?  【須藤市長】 コロナ対策第3弾で計画している市内飲食店等応援のグルメサイトでも「里沼」要素を入れ込む必要がある。	事前登録団体が、利用の都度利用届を提出する制度で、文化会館と観光課事務所にポストを設置したい。登山届同様の運用である。  水面利用ルール策定の準備を進めているのは城沼のみ。将来的には有料レンタルもあり得るが、現状では庁内関係課への貸与のみ。  グルメサイトと「里沼」連動も検討する。

4	<p>里沼グローバルトランスミッションチーム（秘書課・日本遺産PJ）</p> <p>新型コロナの影響により上半期はワークショップ事業を中止。地域プロデューサー橋本淳司と連携して里沼動画制作、同岡屋英治氏に依頼して新プログラム(ヨシ紙漉き・葦簀工作など)を研究中。</p> <p>インターネットによる情報発信を進めている。①3月開設の里沼公式サイト「おしらせ」で随時発信。②ルートイン独立リーグ群馬ダイヤモンドペガサス協力により試合動画中で里沼CMを配信中。</p> <p>邑楽町から事業連携の打診があり、多々良沼マップ作成や館林紬(中野絋)ワークショップ等も構想。令和3年度「里沼サミット」への参加も協議・調整中。</p>	<p>【須藤市長】</p> <p>多々良沼に注ぐ多々良川は邑楽町方面から流入している。普及事業だけでなく、水質浄化等でも一緒に取り組む必要がある。</p>	—
5	<p>水辺環境保全チーム（地球環境課・緑のまち推進課・農業振興課・文化振興課）</p> <p>【地球環境課】</p> <p>チーム全課で市内5沼のBOD値データ(過去10年)の解析を行い、水質改善に向けた検討を行った。また多々良沼の導水量も分析し、課題と解決方策の検討を進めた。</p>	<p>【須藤市長】</p> <p>多々良沼の水質浄化は導水が重要。国県の関係機関に働きかけ、関係団体を含めた導水協議会設立に向けて動いて欲しい。</p> <p>【須藤市長】</p> <p>市内NPOから多々良沼自然保護活動での連携を要望する声があった。又マベーション連絡協議会にも参画いただき、意見を聴いて行きたい。</p>	<p>関係機関等と協議・調整を進める。</p> <p>多々良沼自然公園を愛する会は直接的には群馬県館林土木事務所の管轄下にあるが、市としても何が協力できるのかを検討する必要がある。</p>

6) 須藤市長総評

各チームともきちんと取り組みを進めており、本タスクフォース会議参加者のみで情報を共有するのは勿体ない。市公式動画として公開することで、民間事業者やプレイヤーの新規参画を促すことができるかもしれないので、次回以降検討して欲しい。また7/15号の上毛新聞「視点」にて市内在住のサバイバルタレントであるランボー土田氏のコラムが掲載されていた。「五感働かせ自然と対話」と題された文章に感銘を受けた。群馬大学宝田先生も都会ではなく自然で五感・六感を磨くなかで、新時代のリーダーが生まれてくると指摘しているが、自然豊かな我々の館林市は、その観点からも本当に価値があるまちなのである。